

てがたんレポート Vol.3 No.2 (2006年2月:通巻23号)

★観察コース:鳥博スタート→駐車場前田んぼ→親水広場ミニ手賀沼→

手賀大橋下漁協前→噴水広場→釣り堀わき広場(まとめ&解散)

★観察日時/天気:2006年2月11日(土)10:00~12:00/晴れ

★参加人数:23人

★観察案内&記録:

・ボランティア・スタッフ(敬称略・五十音順):伊東茂子、小野寺喜四郎、木村稔、楠本直子、

小泉伸夫、近藤尚志、首藤恵美子、染谷迪夫、弘貫さと子、古川克彌)

・鳥博職員:時田賢一、斉藤安行、村松和行

今回のテーマ
・冬鳥のカモと水質
・ロゼット植物の葉
・越冬昆虫

観察記録

【観察した生き物リスト】

★観察した鳥類

カイツブリ、カワウ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ノスリ、ハイタカ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス(30種類)

(帰化鳥や家禽)コブハクチョウ、バリケン、シナガチョウ、バリケン、アヒル

★観察した植物

○花

オオイヌノフグリ、セイヨウタンポポ、ホトケノザ、ノボロギク、タネツケバナ、ナズナ、カンツバキ、ハンノキ

○ロゼット

ノゲシ、オニノゲシ、オオアレチノギク、ハルジオン、ヒメジョオン、チチコグサモドキ、セイヨウタンポポ、オオジシバリ、ナズナ、タネツケバナ、メマツヨイグサ、ギシギシ

○その他

冬芽→ムクノキ、サクラ、カツラ、ミズキ

実→ナンテン、アオキ

★観察した昆虫類

タンボコオロギ(幼虫越冬)、ヒシバツタ、ハネナガヒシバツタ、ナナホシテントウ、スズバチの巣、イラガの繭、オオカマキリ卵のう、アブラゼミの卵、クワゴの繭、オオミノガのミノ

★体験メニュー(結果は裏へ…)

1.地温と気温

ホトケノザの咲く土手の南斜面にて測定

2.ロゼットの葉の数調べ

アレチマツヨイグサのロゼッタ葉の観察

3.カモのカウントと水質測定

手賀大橋下の漁協前に集まるオナガガモの数をカウント。カモの集まる場所を含む2箇所水質測定。

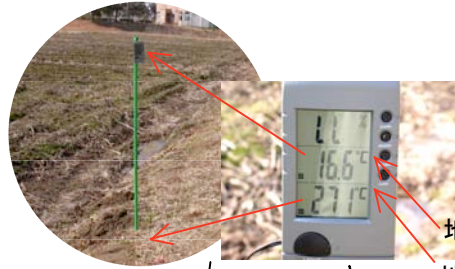
4.ハンノキの雌雄花

ハンノキの雌雄花の定点観察。

2月の観察アルバム



体験メニュー3-1
 -オナガガモの数を数えよう-
 写真判定の結果は198羽(♂106、♀92)
 先月は434羽でしたので、それより減っていました。



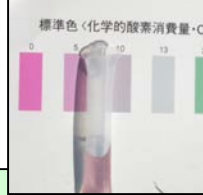
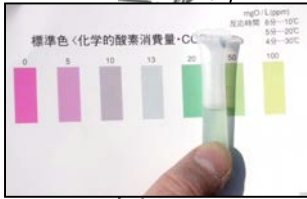
地上120cmの気温
 地面の温度



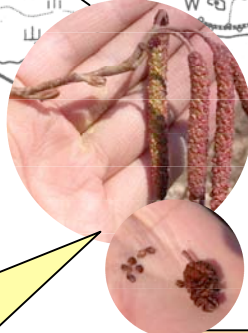
市民スタッフの古川さんが、ロゼット植物について、お話ししてくれました。

体験メニュー 1
 -地温と気温をくらべてみよう-
 「てがたん」の時の計測では、南斜面の地面の温度は24°C、地上120cmは14°Cでした。昼頃には、地面約27°C、地上120cm約17°Cでした(写真)。

日の光がさすと、地面近くの植物は、太陽光を吸収した土からの輻射熱と地面からの太陽光の熱により、地上より約10°Cもあたたかい環境に生育しています。肌寒い季節でも、ホトケノザやオオイヌノフグリは、あたたかな地面で開花しています。



体験メニュー3-2
 -簡易測定で水質を比べてみよう-
 餌付けにカモが集まる場所ではCOD50mg/l、付近のヨシ原ではCOD5mg/l。カモの糞や餌付けの餌により、水中の有機物が増加し、COD値が高くなった(水質が汚れた)のでしょうか。



体験メニュー4
 -ハンノキの花を定点観察しよう-
 ハンノキの雄花は、黄色い花粉を飛ばしていました。雌花も開花していました。昨年の雌花にはまだ種子が残っているものもありました。

体験メニュー2
 -ロゼット植物の葉を数えよう-
 メマツヨイグサのロゼットの葉の数は39枚でした。見た目よりも多くの葉が、放射状に広がり、効率よく太陽光を浴びていることが分かりました。

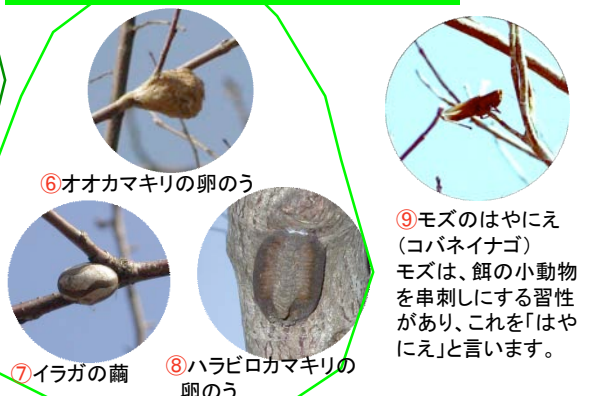
観察した冬芽



観察した越冬昆虫(成虫&幼虫)



観察した越冬する昆虫(卵)



⑨モズのはやにえ(コバネイナゴ)
 モズは、餌の小動物を串刺しにする習性があり、これを「はやにえ」と言います。